

卒後教育委員会

担当理事：渋谷大助

副委員長：丹羽康正

委員：小林正夫、島田剛延、西野善一、廣岡芳樹、安田 貢

委員会開催：2回

1. カリキュラムについて

検診評価、精度管理に関わる検診本来の教育部分でのボリュームを増やす必要があることから理事長、専門医制度委員会、疫学専門の先生方にご高聞いただき全体的に見直した。カリキュラム完成に向け引き続き検討していく。

2. 医師認定研修会と胃X線読影講習会について

- ・医師認定研修会プログラムは総会会長が企画運営してきたが、新制度移行にあたりカリキュラムに則り統一した内容で行うこととなった。第32回医師認定研修会（つくば）よりプログラムは卒後教育委員会が担うこととなり下記が立案された。

平成29年6月24日（土）9:00～12:00

「総論」 斎藤 博（60分）、「内視鏡検診」 成澤林太郎（30分） 司会：一瀬雅夫

「大腸がん検診」 松田一夫（30分）、「腹部超音波検診」 小川真広（30分） 司会：丹羽康正

- ・胃X線読影講習会プログラムは従来どおり胃がん検診精度管理委員会（胃X線読影講習会プログラム実施委員会）が企画する。
- ・医師認定研修会と胃X線読影講習会の運営は総会会長にお願いする。

3. 卒後教育の今後のあり方について

- ・医師認定研修会と胃X線読影講習会を合体させカリキュラムに基づいた教育を行うべきである。
- ・支部医師研修会は各支部独自の形式で開催されているが本委員会が3年分のプログラムを企画し総会会長あるいは支部に提示するなど統一した開催概要を作成すべきである。

4. その他

下記について認定委員会で諮るよう要請した。

①経過措置について

胃がん検診チェックリストを受けて、平成21年度より経過措置（胃区分のみ）を設けたが400名以上の認定医が輩出されたので経過措置を終了しても良いのではないか？

②胃X線読影講習会（経過措置の要件）について

- ・総会時に開催しているが本部が統一した開催概要を作成し、それに則った読影講習会を支部で開催するのはどうか。
- ・現在、胃X線読影講習会の中で読影演習を実施しているが平成29年度から実施される新制度試験の中で読影問題を出题する必要があるか。

③JDDW 教育講演について

JDDW 教育講演が認定医基準（従来の申請）に入っているが教育講演の内容ががん検診に関わっていないので、認定医基準から外し、その代わりに医師認定研修会あるいは支部医師研修会の出席を要件にした方が本来の形ではないか。